

こども科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

総合研究報告書

低年齢児保育が子どもの発達等に及ぼす効果・影響の解明のための研究

令和6年度 分担研究報告書

日本の低年齢児保育の質（プロセスの質）を問う視点の探究

ー低年齢児保育を実践している保育士・保育教諭が大切にしていることの分析からー

研究分担者 菅井洋子 川村学園女子大学・教授

研究要旨

本分担研究では、保育所や認定こども園等で低年齢児保育を実践している保育士・保育教諭へ実施した質問紙調査項目のうち「低年齢児の保育で大切にしていること」（自由記述回答）を分析し、低年齢児保育の構成要素を検討しながら、日本独自の低年齢児保育の質を問う視点への示唆を得ることを目的とした。

0、1、2歳児クラスの担任保育士・保育教諭2,727名の自由記述回答を、テキストマイニングソフトKH Coder（Base edition Ver.3.02 2024）を用い、全体傾向を示し、検討した。

結果から、保育士・保育教諭が低年齢児保育で大切にしていることについて7つのグループ及び概念（グループ【概念】：1【子どもの気持ちや思いを尊重した関わり、発達に応じた保育】、2【安心して過ごし活動できる環境や生活リズム】、3【担任、保護者、職員、看護師の連携や情報共有】、4【子どもの健康管理】、5【丁寧な関わりや保育】、6【子どもとのスキンシップ】、7【信頼関係・愛着関係の構築】）がみいだされた。また、日本の保育の文脈で大切にされていること、保育士・保育教諭の保育観が、子どもが直接体験する質「プロセスの質（子どもたちの育ちにつながる〈子どもたちと保育者、子ども同士、保育者同士の相互作用や関係性〉〈環境の構成〉等）」からも浮かびあがり、低年齢児保育の質を問う視点への示唆が得られた。

これらの結果にもとづき、保育士・保育教諭の記述の詳細な分析を進め、日本の低年齢児保育固有の質（プロセスの質）を問い続けながら、次年度の研究に着手していくことが今後の課題となる。

A. 研究目的

保育の質は社会的に構成された概念であり、国の文化的信念や価値に依存し多次元なものであることや、3歳以上とは異なる3歳未満児保育（低年齢児保育）固有の保育プロセスの質の精緻な議論が求められてきていることが指摘されている（秋田、2020等）。

そこで日本の低年齢児保育（0、1、2歳

児保育）の実践に関する研究動向をもとに、子どもに直接かわる質の側面として近年重視されている「プロセスの質」との関連から知見を整理し、日本の低年齢児保育実践の特徴を探っていることは昨年度の報告書に記した通りである（菅井、2024等）。

本分担研究では、保育所や認定こども園

等で低年齢児保育を実践している保育士・保育教諭が「低年齢児の保育で大切にしていること」（自由記述回答）を分析し、保育観をもとに低年齢児保育の構成要素を検討し、日本独自の低年齢児保育の質を問う視点への示唆を得ることを目的とした。なお、本報告書は日本発達心理学会大会（菅井他、2025）において発表した内容をもとに執筆した。

B. 研究方法

本調査対象

全国の低年齢児保育を実施している保育所や認定こども園等の施設長および保育士・保育教諭を対象に、都道府県、施設種、施設設置別がランダムになるよう無作為抽出により調査対象施設を選択し、5000施設に郵送により質問紙調査を送付し回収した（回収率 20%、実施期間 2024 年 2 月～5 月）。

本研究では 0、1、2 歳児クラスの担任保育士・保育教諭 2727 名の自由記述回答を分析対象とした。（0 歳クラス担当 767 名、1 歳クラス担当 761 名、2 歳クラス担当 816 名、0・1・2 歳合同クラス担当 143 名、0・1 歳合同クラス担当 107 名、1・2 歳合同クラス担当 78 名、その他 55 名）。

分析方法

保育実践や保育の質に関する質問紙調査項目のうち「低年齢児の保育で大切にしていることや園やクラスで工夫していることがあれば教えてください」と低年齢児クラスを担当している保育者へたずねた自由記述の回答を分析した。分析方法としては、文書形式のデータを定量的な方法で分析し、結果を視覚化し示すことが可能であるテキストマイニングソフト KH Coder（Base edition Ver. 3.02 2024、以下「KH Coder」）を用い（樋口・中村・周、2022；樋口、2020；末吉、2019；等）、全体傾向を示し検討した。

<倫理的配慮>

園や個人が特定されないこと、学会で報告すること等を調査票の表紙に記載し同意を得た上で調査を実施した。武蔵野大学教育学部倫理委員会の承認を受けている（承認番号 R6-002）。

C. 研究結果

1) 低年齢児保育で保育士・保育教諭が大切にしていること

－KH Coder による分析から－

KH Coder の共起ネットワークを用い、共起関係の種類を語一語、描画する共起関係の選択を上位 60 に設定し、一般的な語「する」の 1 語を取り除き分析した結果が図 1 である（総出語数：使用 42,168 語/114,939 語、異なり語数：使用 2,705 語/3,181 語）。

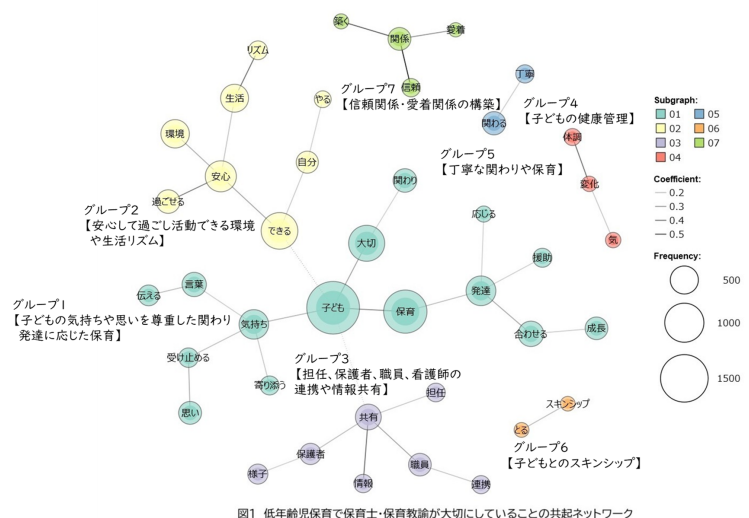


図 1 に示されたように、共起が多い組み合わせの語と語が関連の強さにより異なる太さの線でつながり、サブグラフ検出により 7 つのグループが描きだされた。

各々のグループを構成している語について、上位の頻出語や jaccard 係数を指標に、自由記述内容を検討し、概念を命名した（表 1）。

表1 保育士・保育教諭が「低年齢児の保育で大切にしていること」の7つのグループおよび概念	
グループ	概念
グループ1	子どもの気持ちや思いを尊重した関わり、発達に応じた保育
グループ2	安心して過ごし活動できる環境や生活リズム
グループ3	担任、保護者、職員、看護師の連携や情報共有
グループ4	子どもの健康管理
グループ5	丁寧な関わりや保育
グループ6	子どもとのスキンシップ
グループ7	信頼関係・愛着関係の構築

2) 低年齢児保育で保育士・保育教諭が大切にしていること

ー自由記述回答の分析からー

次に、表1に示された7つのグループ及び概念について、各々のグループにおける保育士・保育教諭の自由記述回答を例示し、プロセスの質(子どもたちの育ちにつながる〈子どもたちと保育者、子ども同士、保育者同士の相互作用や関係性〉〈環境の構成〉等)から検討することを試みた。

グループごとに分析した結果が、表2から表8である。

表2 グループ1【子どもの気持ちや思いを尊重した関わり、発達に応じた保育】のプロセスの質の観点別自由記述回答例

プロセスの質の観点	自由記述回答例
子どもと保育者の相互作用	気持ちや代弁し寄り添い温かい気持ちで接することを心掛けています。」 「子どもの気持ちを受け止めながら、自信をつけて、チャレンジする気持ちを育てること。」 「ほまだまだ言葉で自分の気持ちや考えを伝えることが難しい年齢なので、行動や表情、ちょっとした変化などをしっかりと読み取り汲み取れるよう一人一人に目を向け関わることを大切にしています。」 「個々の発達に合わせ無理のないように、援助するよう意識している。」
子ども同士の相互作用	異年齢保育をすることで優しい気持ちや年上の子どもを真似する気持ちを育んでいる。」
保育者同士の相互作用	「子どもの興味や発達について、担任で共有するよう心掛け、それを元に遊びや環境を構成するようにしている。」
保育環境の構成	「クラス内での月齢差、発達差に合わせた玩具や環境の用意」

表3 グループ2【安心して過ごし活動できる環境や生活リズム】のプロセスの質の観点別自由記述回答例

プロセスの質の観点	自由記述回答例
子どもと保育者の相互作用	「言葉にならない思いを汲み取り、保育者が言葉にして受け止めることで子どもが安心して自分の思いを表現できるようにしている。」
保育者同士の相互作用	「子どもたちが安全、安心の中で、信頼できる大人と穏やかかつ意欲的に成長、発達しているよう願い、環境構成やそこで働く保育者のチームワークがとれるように日々情報交換や意見のやりとりをしている。」
保育者と保護者との関係性・相互作用	保護者との信頼関係も大切にしたいので、体調やその日の出来事、発達にあった援助など、ノートや送迎時に話したりして安心して仕事ができるよう心掛けています。
家庭との連携	「家庭と連携を取ってその子に合った日課をつくり、安心して園生活をおくれるようにしている。」
保育環境の構成	「1歳児になると、歩けるようになり探索範囲が広がる。まだ、走ってぶつかりケガをすることの重大さは理解していないため、棚の角などには安心クッションを付けたり、触ってはいけない場所には目隠しをしている。危ないものには手の届かない場所で保管。」
保育環境、関係性、相互作用	「ゆったりとした雰囲気や大切に、子どもたちが安心してすごせるようにしている。」

表4 グループ3【担任、保護者、職員、看護師の連携や情報共有】のプロセスの質の観点別自由記述回答例

プロセスの質の観点	自由記述回答例
保育者(担任)同士の連携	複数の保育者が入るため、保育者間での共通理解や声の掛け合いなどの密な連携を大切にしている。」 「子どもが関係を築いた保育者を求める時(不安な時、食事の時、午睡時等)、そのタイミングで求められた保育者が丁寧に聞かれるよう担任間の動きの連携をはかるようにしている。」
家庭との連携	家庭との連携を大切にしており、家庭の様子や発育状況などを共有して一緒に子どもの成長を見守ることを意識している。」
保健・栄養士・調理職員との連携 給食室との連携 調理員・栄養士との連携 保護者との共有	「クラスでの連携、乳児クラスでの連携、又離乳食に保健や栄養士も加わり配膳に調理職員も加わるなど、園全体で各クラスを支えている。大人の連携の良さ、関係の良さが、子どもたちの安心できる環境となっていると考え、とても大切にしている。」 「給食室との連携(離乳食の様子等、声をかけ合い共有している)」 「食事での個人差(食欲・食材)が大きいので、調理員さん(栄養士さん)と連携しながら又保護者と共有しながら形態や量を工夫している。」
看護師との連携	体温など、体調の変化が激しいので小さな変化を見逃さないよう、担任看護師との連携を大切にしている。」

表5 グループ4【子どもの健康管理】のプロセスの質の観点別自由記述回答例

プロセスの質の観点	自由記述回答例
子どもと保育者の相互作用	体調の変化が起こりやすい、急に熱が出たり、お腹を壊したりすることがよくある。小さな変化に気づき適切に対応するスキルが求められる。感染症予防や看護の知識も必要。」 「園での検温は朝と午睡時間に行う。」
保育者(担任)同士の相互作用	「ケガや体調の変化をすぐに担任間で共有し、その後事務所へ報告し対応を考えている。」 「疾患がある子や体調が悪そうな子は職員間でも確認し合う。」
保育者と保護者の相互作用	保護者から子どもを預かる際に家庭での様子や体調をしっかりと確認すると同時に本児の顔色を見て受け入れる。」

表6 グループ5【丁寧な関わりや保育】のプロセスの質の観点別自由記述回答例

プロセスの質の観点	自由記述回答例
子どもと保育者の関わり	「一人一人の人格を大切に考え、その子の発達状況や思いを配慮し受け止め丁寧にしかかわるよう心掛けています。」
保育者(担当・職員)同士の連携	「手洗い、排泄、着脱、食事など一人一人丁寧に見守ることを大切にしているため、担当やフォローの職員と連携しながら慌ただしくならないよう心掛けています。」
保育環境の構成	「大人も子どもも安心して、落ち着いて過ごせるコーナーや丁寧に園全体を清掃することで清潔な環境を保っている。」
家庭・保護者との関わり	「低年齢児のため、家庭での状況把握が必要となると思うので保護者と情報を共有したりひと家庭ごとの関わりを丁寧にしている。」

表7 グループ6【子どもとのスキンシップ】のプロセスの質の観点別自由記述回答例

プロセスの質の観点	自由記述回答例
子どもと保育者の相互作用・関係性	「子どもがスキンシップをもとめている場合は、その気持ちが十分に満たされるまでじっくりと一対一で関わり安心して自ら遊べるように声掛け、関わりを心掛けています。」 「思いや要求等を言葉で伝えられない年齢なのでスキンシップを多く取ったり、個々と関わることを大切に些細な変化、サインを見逃さないようにしている。」

表8 グループ7【信頼関係・愛着関係の構築】のプロセスの質の観点別自由記述回答例

プロセスの質の観点	自由記述回答例
子どもと保育者の関係性・相互作用	「人格形成の基礎を培う最も大切な時期であることを頭に置き、子どもとの信頼関係、愛着関係を築いていけるよう子どもの気持ちや要求をしっかりと受け止め、安心して過ごせるよう心掛けています。」 「育児担当制によって、特定の保育者との愛着関係を大切に、アイコンタクトで”いつも見ているよ””大丈夫”が伝わるようにしています。」
子どもと保育者の関係性・保育者と保護者の関係性	「子どもとの愛着関係、信頼関係作りと、保護者との信頼関係作り。」

以上、日々保育を実践している保育士・保育教諭が記した自由記述から、低年齢児保育で大切にしていることが、グループ及び概念ごとにプロセスの質との関連からも示された。

D. 考察

本研究では、低年齢児保育を実践している保育士・保育教諭が大切にしていることについて、質問紙調査の記述を分析することにより、7つのグループ及び概念が新たにみいだされた。また、日本の保育の文脈で大切にされていること、すなわち保育士・保育教諭の保育観が、子どもが直接体験する質「プロセスの質（子どもたちの育ちにつながる〈子どもたちと保育者、子ども同士、保育者同士の相互作用や関係性〉〈環境の構成〉等）」からも浮かびあがってきたと考える。

E. 結論

日本の低年齢児保育の実践において大切にしていることが、保育士・保育教諭が自由記述に記した言葉（文字、語）に着目することによりその全体像が整理され、低年齢児保育の質を問う視点への示唆が得られた。

本報告書では保育士・保育教諭が「低年齢児の保育で大切にしていること」について検討した結果を示したが、「低年齢児の保育で困難に感じていること」（堀他、2025）において同様の内容が記されていたことも判明した。このことから大切にしている・したいと考えているが、実践することの難しさを感じていることが推察される。園での観察、保育士・保育教諭、施設長へのインタビュー等、多様な方法やツールにより低年齢児保育のプロセスの質をとらえようとするこの意味にもつながる結果であると考えられる。

本結果をもとに、多様な人や保育室内外の物・自然等との関わりや相互作用、場、時間をめぐる保育士・保育教諭の記述を詳細に検討し、日本の低年齢児保育固有の質（プロセスの質）を問い続け、次年度の研究計画に基づき活かしていくことを今後の課題とする。

F. 引用文献

- 1) 秋田喜代美（2020）グローバル社会に向けた日本の保育のこれから、保育学研究、58（1）、pp135-141
- 2) 菅井洋子（2024）日本における低年齢児保育の実践研究の動向、令和5年度こども科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）分担研究報告書、pp22-25
- 3) 菅井洋子・堀科・今福理博・淀川裕美・猪熊弘子・峰友紗・箕輪潤子（2025）低年齢児保育を担当する保育士・保育教諭の保育観 1：低年齢児の保育で大切にしていることの記述分析から、日本発達心理学会第36回大会
- 4) 樋口耕一・中村康則・周景龍（2022）動かして学ぶ！はじめてのテキストマイニング：ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析 KH Coder オフィシャルブックⅡ、ナカニシヤ出版
- 5) 樋口耕一（2020）社会調査のための計量テキスト分析：内容分析の継承と発展を目指して【第2版】KH Coder オフィシャルブック、ナカニシヤ出版
- 6) 末吉美喜（2019）テキストマイニング入門：Excel と KH Coder でわかるデータ分析、オーム社
- 7) 堀科・菅井洋子・今福理博・淀川裕美・猪熊弘子・峰友紗・箕輪潤子（2025）低年齢児保育を担当する保育士・保育教諭の保育観 2：低年齢児の保育で困難に感じていることの記述分析から、日本発達心理学会第36回大会

G. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表（筆頭発表）

菅井洋子・堀科・今福理博・淀川裕美・猪熊弘子・峰友紗・箕輪潤子（2025）「低年齢児保育を担当する保育士・保育教諭の保育観 1：低年齢児の保育で大切にしていることの記述分析から」、日本発達心理学会第36回大会

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

低年齢児保育を担当する保育士・保育教諭の保育観― 低年齢児の保育で大切にしていることの記述分析から

○菅井洋子¹・堀科²・今福理博³・淀川裕美⁴・猪熊弘子⁵#・峰友紗³#・箕輪潤子³
(¹川村学園女子大学・²東京家政大学・³武蔵野大学・⁴千葉大学・⁵駒沢女子短期大学)

問題

保育の質は社会的に構成された概念であり、国の文化的信念や価値に依存し多次元なものであることや、3歳以上とは異なる3歳未満児保育（低年齢児保育）固有の保育プロセスの質の精緻な議論が求められてきていることが指摘されている（秋田、2020等）。

そこで日本の低年齢児保育(0、1、2歳児保育)の実践に関する研究動向をもとに、子どもに直接かかわる質の側面として近年重視されている「プロセスの質」との関連から知見を整理し、日本の低年齢児保育実践の特徴を探ってきている(菅井, 2024等)。



出典：厚生労働省（2018）保育所等における保育の質の確保・向上に係る関連資料

目的

本発表1では、保育所や認定こども園等で低年齢児保育を実践している保育士・保育教諭（以下、「保育者」）が「低年齢児の保育で大切にしていること」（自由記述回答）を分析し、保育観をもとに低年齢児保育の構成要素を検討し、日本独自の低年齢児保育の質を問う視点への示唆を得ることを目的とする。

方法

調査対象) 全国の低年齢児保育を実施している保育所や認定こども園等の施設長および保育士・保育教諭を対象に、都道府県、施設種、施設設置別がランダムになるよう無作為抽出により調査対象施設を選択し、5000施設に郵送により質問紙調査を送付し回収した(回収率20%、実施期間2024年2月～5月)。

本発表では0、1、2歳児クラスの担任保育士・保育教諭2727名の自由記述回答を分析対象とした。
(0歳クラス担当767名、1歳クラス担当761名、2歳クラス担当816名、0・1・2歳合同クラス担当143名、0・1歳合同クラス担当107名、1・2歳合同クラス担当78名、その他55名)。

【分析手法】保育実践や保育の質に関する質問紙調査項目のうち「低年齢児の保育で大切にしていることや園やクラスで工夫していることがあれば教えてください」と低年齢児クラスを担当している保育者へ了すねた自由記述の回答を分析した。分析手法としては、文書形式のデータを定量的な方法で分析し、結果を視覚化し示すことが可能であるテキストマイニングソフトKH Coder (Base edition Ver.3.02 2024、以下「KH Coder」)を用い(樋口・中村・周、2022等)、全体傾向を示し検討した。

倫理的配慮) 園や個人が特定されないこと、学会で報告すること等を調査票の表紙に記載し同意を得た上で調査を実施した。武蔵野大学教育学部倫理委員会の承認を受けている(承認番号R6-002)。

結果

KH Coderの共起ネットワークを用い、共起関係の種類を語一語、描画する共起関係の選択を上位60に設定し、一般的な語「する」の1語を取り除き分析した結果が図1である(総出語数:使用42,168語/114,939語、異なり語数:使用2,705語/3,181語)。

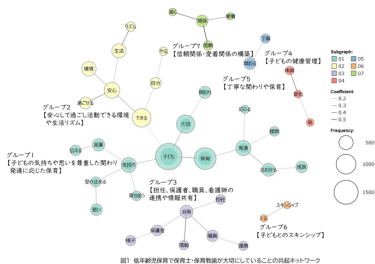


図1 低年齢児保育で保育士・保育教諭が大切にしていることの共起ネットワーク

→図1に示されたように、共起が多い組み合わせの語と語が関連の強さにより異なる太さの線つながり、サブグラフ検出により7つのグループが描きだされた。各々のグループを構成している語について、上位の頻出語やjaccard係数を指標に、自由記述内容を検討し概念を命名した(グループ1~7)。

考察

低年齢児保育を担当している保育士・保育教諭が大切にしていることに関して、7つのグループ及び概念がみいだされた。日本の保育の文脈で大切にされていること、保育観が、子どもが直接体験する質「プロセスの質（子どもたちの育ちにつながる〈子どもたちと保育者、子ども同士、保育者同士の相互作用や関係性〉〈環境の構成〉等）」の観点からも浮かびあがってきたと考える。本結果をもとに、多様な人や保育室内外との物・自然等との関わりや相互作用、場、時間をめぐる保育者の自由記述を詳細に検討し、日本の低年齢児保育固有の質を問う枠組みづくりが今後の課題である。

引用文献：秋田喜代美(2020)グローバル社会に向けた日本の保育のこれから、保育学研究、58(1)、pp135-141；菅井洋子(2024)日本における低年齢児保育の実践研究の動向、報告書
樋口耕一・中村唐則・周景蔵(2022)動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング、ナカニシヤ出版

付記：本研究はこども家庭科学研究費「低年齢児保育が子どもの発達等に及ぼす効果・影響の解明のための研究（研究代表：箕輪潤子、23DA1301）」の助成を受けて実施された。